

十月例会御案内 (平成二十二年)

時代を刷新する会

○ 御案内

十月二十九日(金) 正午～二時半 衆議院新議員会館地下一階第五会議室 (第二九三回)

講 題 中国の日本乗っ取り工作の実態!

講 師 福田博幸先生(中国問題専門家)

わが国固有の領土・尖閣列島海域にて、操業していた中国漁船に、海上保安庁巡視船が近づくと、逃げようとした中国漁船が巡視船に衝突してきたため、日本側は中国船長を国内法により公務執行妨害で逮捕したのに対し、中国政府が執拗に抗議してきたので、日本側は拘留延長していた船長を処分保留のまま急遽釈放した。この事件は、欧米各国でも報道され、「日本の屈辱的退却」(ニューヨークタイムズ)、「ますます威嚇的な中国に直面するアジア」(ワシントンポスト)等々、「中国脅威論」が台頭した。これに対し、中国も少し考え直したのか、ASEM首脳会議に出席していた温家宝首相は、十月四日、菅直人総理と急遽会談。危機的状況は一先ず回避された。しかし、中国問題専門家の福田博幸先生は、国民はこれで安心してはならないとし、中国の日本乗っ取り工作を論証・警告しておられるので、お話をうかがいます。(清原記)

◎ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきたく)

□ 御報告

去る九月十日の月例会は、「民主党党首選挙とその後の日本の行方!」と題し、政治評論家の板垣英憲先生に御講話をいただきました。板垣先生は、毎日新聞で総理大臣番記者等を経て、以来二十五～六年にわたり政治評論家として活動しておられるだけに、そのお話は、世間では知られていない内容が多々ありました。その一部を挙げれば、小沢一郎前幹事長と仙石由人内閣官房長官とは同じ昭和四十二年大学卒で、この両者の葛藤は昔からである。菅直人内閣とは

いっても、実際は仙石氏が牛耳っており、党首選は小沢氏対仙石氏の争いであった。党首選の中で菅総理の消費税発言に国民は驚かされたが、過去の消費税増税の場合も、常に、国際金融資本、例えば、ロックフェラーとかゴールドマンサックスなど巨大金融資本の陰が見え隠れしているとし、それらの資本と日本の時の総理との人脈を詳細に説明されました。

また、菅直人内閣の閣僚それぞれについても、世間の認識とは異なる事実関係をも指摘され、国際政治、そして国内政治の裏について御解説いただき、一同、認識を新たにいたしました。その後の意見交換も盛んでした。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、昨年七月、九十歳を機に辞任され、現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽ お知り合いで、こうした志のある方をお誘い下さい。(年会費は一口一万円)

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきたく。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

十月二十九日(金) 出 欠 (いずれか○) 衆議院新議員会館地下一階第五会議室